

## コース 24 たいせつさん 大雪山縦走

リーダー CL K/T SL M/T  
 実施日 平成21年7月15日(水)～18日(土) 天候 16日雨後曇り 17日快晴  
 参加者 24(男性 7 女性17)  
 グレード C上

### コースポイント

ポイント	到着時間	出発時間	備考
小樽港←新潟西港	16日 4:30	15日 10:30	2等船室、2室に分かれる。風浪強くかなりの揺れ。
16日 南暑寒荘	7:30	7:50	雨中。水漏れのごろ石道を登る。途中白竜の滝が豪壮
湿原入口	9:35	9:55	雨は上るが気温は低い。突然ひらける湿原に喚声。エゾカンゾウの大群生を始め、多くの花々に出会えた。
湿原展望台	11:05	11:25	
南暑寒荘	14:05	14:30	「こちらに変更して良かった」の声しきり。
層雲峡(宿泊)	17:15		時間なく、層雲峡観光はカット
17日 ロープウェイ・リフト	6:35	6:00	駅待合室で朝食。リフト途中、雲海上に出る。快晴
黒岳山頂	8:00	8:15	お鉢平の外輪の山々はもちろん、見える限りの山々全部展望する
間宮岳山頂	11:05	11:25	雲ノ平のお花畑、北鎮への雪渓、お鉢平の景観などなど
旭岳山頂	12:50	13:00	登頂時、奇蹟的にガスが晴れ、トムラウシ、十勝連峰ほか360°の大展望となる。
ロープウェイ	15:10	14:55	噴気と姿見ノ池とお花畑と…
新潟西港←苫小牧 東港	18日 15:30	17日 19:30	それぞれ思い出を噛みしめて、飲み、且つ食す。

### 山行等概要(幹事のコメント)



雨竜沼湿原  
エゾカンゾウの大群生

	当初計画	変更して実施
16日	(予報・雨) (A) 旭岳→黒岳縦走	(当日・雨のち曇り) 雨竜沼湿原往復
17日	(予報・曇り時々晴れ) (B) 銀泉台→大雪高原温泉	(当日・快晴) 黒岳→旭岳縦走

(経過)

- 7/13～14日の間、天気予報の確認。地元両ビジターセンターへ登山ルート状況問い合わせ。両ロープウェイ会社への運行見込みの問い合わせ。マイクロバス会社への変更応諾等々の上、SLとコース変更の検討をする。
- その結果、①北海道は今年積雪が多く、春も気温が上がらず、今現在、残雪が多い。ということが分かったし、(A)(B)それぞれのコースの雪の状況を具体的に確認できた。
- そこで、計画通り実施した場合 ②雨やガスの中での旭岳下りの幅広の雪渓では道迷い。北鎮の下りの雪渓での左右への危険が懸念された。上りにするなら良いだろう。
- ③(B)ルートでは、順調に歩いて、帰りの船にやっと間に合うところ、上り、下りのいくつかの雪渓の通過や、緑岳の下りのゴロ岩帯の通過で手間どっていたら、(船に)間に合いそうもない。
- ④(B)ルートは花コースなのに、肝心の花が埋もれていたのでは苦勞の甲斐がないし、また危険もある。ということで、往きの船中ミーティングで「変更案」を提案し、全員了承の上、上記のように実施した。
- ところが、その16日に、同じ大雪山系の南の一角、トムラウシ山と美瑛岳に遭難事故が発生したことを知り、驚くとともに、留守家族の皆様もさぞ心配されたことだろうと思った。しかし、私達は全員無事山行を終えることができた。



南暑寒岳の山裾に広がる雨竜沼湿原

## 「大雪山縦走に参加して」

(1289) N/S

山登りが大好きな私にとって大雪山は一度登ってみたいと思っていた山の一つでした。そんな時、今回の山登りの計画を目にし、是非、参加したいと思い、その日を心待ちにしていました。

7月15日、新潟西港の新日本海フェリーで出港、翌日、早朝に小樽港に入港しました。あいにくの雨予報のため、層雲峡旭岳を雨竜沼湿原に変更とのこと。マイクロバスに乗り込み雨竜沼湿原に向かいました。

駐車場に着くと身支度を整え、いよいよ待望の登山開始です。南暑寒荘の前でラムサール条紋の立札を見て、登山道を登って行くと、道の両側には、見たこともない大きなフキが生えていて、北海道の植物生態の違いを感じ驚かされました。しばらく登ると白竜の滝が見えてきました。雨が降ったせいか、水量が増し、ゴーゴと音をたてて水しぶきをあげていて思わず立ち止り、見入っていました。さらに歩き、吊橋を渡ると急な登りが続き足どりも重くなりましたが、樹林も終わる頃には見晴らしが良くなってきました。

心配された空模様も雨が止み、曇り空となっていき、上へ登ると湿原が見えてきました。そこには、紫のアヤメ、エゾカンゾウ、キンバイと見渡す限り高山植物が咲いていて、湿原の花は今が一番見頃でした。その後、木組みの展望台に着き、休憩、そこから望む湿原の景色は、素晴らしく、さらに遙か彼方に、南暑寒岳(1,296m)の残雪までもが見えました。つかの間の休憩の後、足下に咲く、コバイケ草を見ながら木道を歩き出し、ハイカーの人達にすれ違いながら、展望台に向かって歩いて行くと高い丘に着きました。両側に根曲がり笹の坂道を登るとダケカンバの林を抜けて、南暑寒岳の登山口にも当たる湿原展望台に着き、広大な湿原の素晴らしい眺望に感動しました。



お鉢平覗きを経て、北鎮岳分岐への登りの雪渓

昼食を摂って、空腹を満たした後、今度は山を下り始めました。高い池塘、低い池塘とまるで島が浮いているような、また川が流れているのかのようにも見えました。自然の豊かさが溢れていることを実感させられました。さらに山を下り、南暑寒荘の前に着くと、川辺には大きなブラシが備えてあり、皆で登山靴の土を洗い落とし、バスに乗り込みました。

層雲峡温泉へ一路。今晚、お世話になる宿「みどり」に着きました。一休みして、外湯に入りに行きましたが、風が強く吹いているので急いで宿に帰ることにしました。夕食の時には、トムラウシで遭難の話聞き、何人かの方が亡くなられたとの事。大変驚きました。その夜は明日の登山にそなえて早目に床につきました。

翌朝、外に出てみると、前日とは、うってかわってお天気が良く、今日はいい登山ができると思い嬉しくなりました。一番に登れるようにと、ロープウェイで黒岳(1,984m)を目指し、途中でリフトに乗り換えると、降りてすぐ登山を開始しました。

五合目、七合目と小さなエゾリスが、皆を歓迎するかのように出迎えてくれました。最初のピーク黒岳

の頂上では展望がいっぺんに開け、まわりの山脈が美しく、しみじみと見とれてしまいました。登山の記念に写真を撮り、黒岳を下り始めました。黒岳石室を経て、雲の平からお鉢平への覗き、北鎮岳分岐の手前では、急な雪渓となり、ザクザクと音をたてて雪の中へ靴を刺し、一足一足を踏み締めながらも、前の人に遅れないようにと登り、北鎮分岐の展望所に着くとほっと胸をなで下ろしました。

どの山々の頂上も、それぞれ眺望が良く何とも言いがたいものがあります。一休みして、中岳を経て間



### 黒岳山頂から、大雪山を眺望

左、北海岳 中央、間宮岳 その奥に旭岳の頭  
右方へ中岳、北鎮岳、すぐ後ろは雲の平

宮岳へ向かうも、どうやら、登山道の土が雨に流されて歩きにくさを感じながらも道のまわりに咲く花々を楽しみながら登りました。いつの間にかリーダーの高橋さんは時間が気になるのか早足になっていました。中岳の頂上に着くと、まわりの山の眺めが良く残雪で白く見える山脈が綺麗で、まるで絵葉書のように見えました。間宮岳の頂上はなだらかで、大きな岩が少なく、私は平らな石を探して腰を掛けました。コンビニで買ったおにぎりと漬物の昼食ですが、疲れたせいか美

味しく感じ、トマトをもらって喉を潤しました。

いよいよ旭岳を目指して下り始めました。目の前に旭岳の姿が見えてくると、雪の

多さに、さすが北海道だなと実感しました。またまた、頂上を目指して一步一步、雪を踏みしめて歩き出しました。思ったより足さばきが良く、なんとか登り、途中に立ち止まり一息入れました。雪渓が終わると雪よりも地面の方が、なんだか足が重く感じるようになっていましたが「頂上が見えて来たよ」と声かして、いよいよ頂上に来たのだなあと思いました。

旭岳の頂上(2,298m)はとても天気が良く、360度眺望が広がり、私は、目の前に一段と高くそびえたつトムラウシ山に思わず歓声をあげて喜びました。それもそのはず、初めての旭岳登山で、めったに姿を見せないトムラウシ連山をそれも、くっきりと美しい姿で見ることができたからです。しばし、自然の雄大さに見とれていましたが、この感動の一瞬をカメラにおさめようとお機嫌にポーズをとりました。すると霧がでてきたので下山することになりましたが、小石が多く、石車に乗り、足がとられて、転びそうになり、冷や冷やする場面もありました。

目の前に大きな岩が見えてくるとリーダーが「キンコ岩だよ」と教えてくれたのですが、その岩を良く見ているうちに、大きくて、四角く、金庫の形に見え、なるほどと思いました。大きな荷を背に担ぎ、登ってくる若者達にすれ違い、思わず「大変そうだなあ」と思っていると、姿見の池が見えてきて、そして、火山口からゴォーと音をたてて、白い蒸気が出ていて、何度位あるのだろうと、しばらく見とれていました。

そうしている間に、丁度よい時間になったので、ロープウェイで下に降りると、バスが迎えに来ており、運転手さんが笑顔で迎えてくれ、登山の疲れを忘れてしまいました。港へ向かい、船に乗り込むと、ひと安心し、北海道を後にしました。

今回の北海道の登山は、天候に恵まれ北海道の大自然を満喫し、怪我をすることもなく、無事に新潟に帰ってこた。楽しい思い出となりました。本当に参加してよかったと思い、一緒に参加した方々やリーダーに感謝しています。ありがとうございました。